

# 中国での食品企業技術指導

# 外国食品工場の 情況調査と指導に携って

(12)

## 中国の会社 (その一)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤正忠

本年三月中旬中国の会社への派遣が決まった。相談は昨年の秋から始まっているが、先方からの受入状況が遅れたり、暮や正月に入ったため当初より出発が大分遅れた。お陰でこちらは二月一杯十分に中国語会話レッスンを受けることが出来た。一日約二時間づつ五〇レッスンを単位の結構大変である。でも会話の車の運転と一緒で少しでも一日一回やった方が覚えもよいようだ。フィーは幹旋する協会も。ただほどよいものはない代りに怖いものもない。でも一カ月の特訓が今回家は相手の言つことの理解が出来ただけでも満足した。英語聞

なまめ良いが、中国語は港でも早く出過ぎて迎える人となかなか会わず小一時間くらい時間を無駄にした。出迎えの人達はそれぞれ名前入りの紙やアラカドを持って出て来る人の方を向いているので、こちら一生懸命習った訳である。しかし面白いことに空港やホテルでは当方が日本人と判っているのに英語で話しかける。始めはこれが中国語かなと思つたが、ゆっくり聞いてみると何と英語。大部会では英語が通じるならまずは一安心しが林立している。中国は竹が沢山採れるのでこの竹を縦横に針金で縛って竹を縦横に針金で縛ってそいで作業している。幾ら中ねばもう上海。この国際空

やはり竹は植物であり滑り易いし危険もあると思うが高い所でも平気で組んだ竹に乗っての作業である。

今回はまた私の行く安徽省に岩手県でのリンゴ栽培・育種の専門家が居られ、夕方その先生とお会いし夕食に行く。中国人は比較的アルコールの高い酒(焼酎の類)を飲み且つよく食べる。日本人は酒を飲む際はむしろ小食気味であるが彼等は逆。ガイド氏と当初ビールを飲んでいたらその内アルコール度五〇%の酒になる。乾杯ルールで三人で七六〇ccくらいのボトルを空けてしまふ。不思議にこんなに食べて大丈夫かと思ふ位肉、魚、野菜など殆どが油っこいものであった。初日から食べてしまった。

翌日は飛行機の出発が夜九時半とのことでガイド氏とリンゴの専門家三人で上海市内をめぐり見物した。名所旧跡の案内を替わっても仕方ないので省略するが、職業柄食べ物の廃棄物の処理方法などは詳しくも

も気になる。中国人は前述のように酒があっても結構人数分より余る程料理を取る。ものによっては帰った後テーブル上の皿には残っている。しかしウェートレスは一つにまとめて油だらけの皿はそのまま重ねて持って行く。店の横にある廃棄物入れにはこれらがどれも満量である。飼料になるのであろう。朝昼夕食とたっぷり御馳走になる。いつも思つのだが油っこい料理を食べても茶を飲むと割と消化にも良いようである。またまた中国ではトイレ事情が良くないので途中で催おすと面倒である。レストランでも小さな所だとトイレが店の外にありたりする。また大の方も扉が無かったり、溝があるだけのあったり大糞臭の要るトイレである。どこへ行ってもまずは「廁所在哪兒?」と聞いて確かめておかねばならない。始めて使う中国語がトイレはどこかと「多少錢?」ではいささか恥ずかしい気持もある。さんざん食べてガイド氏と空港で別れて「合肥」の飛行機に乗る。結構混んではいたがゆつたり出来、お菓子と茶を飲んで内は一時間弱のフライトであり直ぐ到着する。リンゴの専門家氏はもう何回も来中されてお荷物が出る前から迎える人と話をされている。夜の一時近くなのに二人のために七、八人の人が迎えて来てくれた。ここでK氏と私はホテルが違いお別れする。K氏は今夜ここに泊し明日は汽車でもっと奥へ行くとのこと。残念ながら山椒大夫の心持ちで彼と別れ、以後お会いしていない。私は会社幹部の方と到着を待っていた。意外に若い人も多いし女性も三分の二くらいいる。形通りの挨拶をした。特訓の成果も出さねばならない。一生懸命少しメモを見ながら「我若佐回佐藤正忠。我是从日本東京来的很高兴有机会来到中国合肥。以后请多多关照。哪是你客气了」と自我介绍(自己紹介)した。どの程度理解してもらえたか判らないが、後から通訳



# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(15)

## 中国の会社 (その三)

(技術士農業及び経営工学部門)

佐藤 正忠

三日目からは殆ど午前

三時間、午後三時

場幹部から提出された質

問事項に私が回答或いは

意見を述べる会議が続い

た。言ひ忘れたがこの会

社の週休日は星期二(火

曜日)の二日のみである。

私は最初の週は星期六、

日(土)日曜日(最後の

週は日曜のみ休日)を賣

い、また帰国する三日前

から工場幹部の人と共に

旅行を兼ねて車で上海迄

送ってもらった。どうも

彼等は国内出張扱いで私

と行動を共にしてくれ

た。合肥から南京、蘇州

を経て上海まで三日

かかる。往復すれば彼等

は六日間程会社を離れて

いる訳で中国は大きい

(交通道路状況を除いて)

と美惑する。

さて本題の質疑応答で

あるが当初日本から偉い

先生が来る(本当だよ。

安徽省医薬管理局の統約

科函字95-06号に丁度日

本の薬業新聞のよつに出

ている。)

勿もこれにはこの工場

の技術指導ばかりでなく

日本の食品、医薬品包装

薬、健康食品の動向、

健康食品の製造法その他

MP、食品添加物につい

ての講演もめると記載さ

れており、やや揉めたも

のテーマを若干変えて

最後の二日間実施した。

しかしこの準備に自宅か

らFAXで原稿用資料を

送ったり大変であった。

とを付記しておきたい。

こゝから私でもやはり資

(2)錠剤にも吸湿し易いも

のがある。この防止方

法はないか。

答：糖衣錠で吸湿するな

らフィルムコーティン

グしたらどうか。この

方が多少は型も小さく

なり、飲み易い。また

PTPのフィルム材質

をPVCに変えてみ

てはどうか。これでも

防止できなければ外か

ら見えなくなるがアル

ミフィルムを使う。

(3)漢方薬の抽出液を乾燥

する方法は何が良い

か。

答：抽出液は主にアル

コール含水が多いので

噴霧乾燥が速くて良い

と思う。その後乾燥

技術としては、流動層

乾燥、泡末層乾燥

(フォームマトドラ

イ)通気式攪拌間接加

熱乾燥、超音波乾燥、

攪拌乾燥、スパイラル

ドライ、真空乾燥、ド

ラム乾燥、凍結乾燥な

どがある。ケースバイ

ケースでいろいろの方

法を用いるが良い。

(4)漢方薬原料抽出の際濾

過するのに良い方法は

ないか。

答：まず抽出液を上澄

み静かに吸み取る。液

の下部は沈殿物が多い

ので濾過布を用いて自

然濾過するしかない。

沈殿を廃棄するなら

(再抽出や飼料にしな

い場合)食品添加物に

ある濾過助剤(酸性白

土、ベントナイト、カ

オリン、珪藻土などの

鉱物質)を使えばよい。

(5)この会社には硝酸カリ

ウムを成分とする糖衣

錠がある。(注：胆囊

炎に有効と言っている

が日本で調べる所カリ

ウム不足の補給の他、

下痢、利尿剤とある)

これも黒く変色するの

でよい解決法はない

か。包装材料も日本に

良いものがあれば紹介

して欲しい。

答：カリウムが糖と反応

するの他他の成分と反

応して黒色物質ができ

るのか試験してみない

と判らない。糖と反応

して着色することが判

明すれば糖衣を止めて

フィルムコーティング

錠とする。また包装材

料は(1)と同じでコスト

を考えて効果をみるの

が良い。数は幾らでも

ある。成分が判れば対

応も可能である。

(6)分包剤で砂糖がかな

り多いものを減糖化す

るにはどうしたら良い

か。

答：砂糖を混合する量を

順次減少させて試験品

を作成し、官能試験し

て薬品の味と甘味の調

和できる点を見出せば

よい。

(7)服用量の多いものを如

何に減少させたらよい

か。

答：薬品は人体に対して

適量がある。一回分を

減らしてみても一日全

体の服用量が勝手に増

えてしまつては意味が

ない。この辺ははつき

り一回服用量一日最大

服用量、多過ぎた場合

の弊害を注意に盛り込

むこと。

(8)漢方薬の原料抽出にア

ルコールの代りに水を

使っても良いか。

答：抽出されるものがア

ルコールと水では異なる

のではないか。両方

の抽出液を分析して成

分相違がないか確かめ

る必要がある。若しコ

スト的な事からアル

コールを減らしたいの

なら含水アルコールで

抽出したらどうか。

(9)漢方薬原料の粉碎時粉

が飛散し減量も多いが

どうすればよいか。

答：(現場で見た粉碎機

では)粉の飛散は防止

できないので、布かプ

ラスチックカバーをか

けて機械の外へ飛散し

ないよう、少なくとも

部屋内に留めるしか

いのではないか。

(10)韓国製高麗人参顆粒剤

を目の前でコップに水

で溶かす。直ぐに溶け

て澄明な液になる。こ

のような顆粒剤を作り

たいがどうすれば良い

か。

答：澄明に溶解するよう

な界面活性剤的なもの

が使われているが分析

してみたら良い。日本

では顆粒や細粒を水に

溶かして飲む人がいな

い訳ではないが、完全

に澄明に溶けなければ

ならないと考える人は

少ない。濁つていても

そのまま飲んでいい。

(11)日本の医薬品で使われ

ている速溶型の補助剤

や新しいタイプの補助

剤を教えてください。

答：医薬品の補助剤には

その使用目的によつて

沢山ある。主薬が大麥

少量の場合や錠剤、カ

プセルにし易くする増

量剤、賦型剤、滑沢剤、

着色料(食品添加物色

素が多い)、味改良剤

(マスキング効果)が

ある。速溶は薬品の効

果を示す内臓部位にも

よめる。むしろ腸溶剤も

ある。胃で溶けないよ

うにしてある。錠剤に

は打錠時のトラブル防

止に結合剤(ハイン

ター)の役目をする)を

使用する。

以上主なる医薬品に関

する質問と解答である

が、これを毎日、黒板に

絵や字(これも英語か漢

語)を書いて説明した。

聴く方は大勢。説明は一

人で通訳を介す。大変な

作業である。



# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(15)

## 中国の会社 (その三)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤正忠

三日目からは殆ど午前  
三時間、午後三時間工  
場幹部から提出された質  
問事項に私が回答或いは  
意見を述べる会議が続い  
た。言い忘れたがこの会  
社の週休日は星期二(火  
曜日)のみである。  
私は最初の週は星期六、  
日(土)、日曜日(最後の  
週は日曜のみ休日を買  
い、また帰国する三日前  
から工場幹部の人と共に  
旅行を兼ねて車で上海迄  
送ってもらった。どうも  
彼等は国内出張扱いで私  
と行動を共にしてゐた。  
合肥から南京、蘇州  
を経由して上海まで三日  
かかる。往復すれば彼等  
は六日間程会社を離れて  
いる訳で中国は大きい  
(交通道路状況を除いて)

と実感する。

さて本題の質疑応答で  
あるが当初日本から偉い  
先生が来る(本当だよ。  
安徽省医薬管理局の皖約  
科函字95-06号に丁度日  
本の薬業新聞のように出  
ている。)

勿もこれにはこの工場  
の技術指導ばかりでなく  
日本の食品、医薬品包装  
漢方薬、健康食品の動向、  
健康食品の製造法その他  
MP、食品添加物につい  
ての講演もある(記載さ  
れており、やや採れたも  
ののテーマを若干変えて  
最後の二日間実施した。  
しかしこの準備に自宅か  
らFAXで原稿用紙料を  
送ったり大変であった(こ  
とを付記しておきたい。  
いへば私でもやはり資

料を整えなければ数時間  
話をするのは大変なこと  
である。話の原稿作りと  
通訳氏に渡す原稿を準備  
するので一両日を要し  
た。  
一、工場での質疑応答(薬  
品の場合)  
(1)分色剤が吸湿し潮解す  
る。どんな包装材料を  
使えばよいか。  
答：内容医薬品の物性と  
品質保証期間の長さによ  
る。現在はプラス  
チックフィルムをミ  
ネートした防湿設計は  
その組み合わせてよ  
うして幾らでもできる。ピ  
の位その包装はコレスト  
がかげられるかによ  
る。また乾燥剤や水分  
吸収剤を併用してもよ  
い。

(2)錠剤にも吸湿し易いも  
のがある。この防止方  
法はないか。  
答：糖衣錠で吸湿するな  
らフィルムコーティン  
グしたらどうか。この  
方が多少は型も小さく  
なり、飲み易い。また  
PTPのフィルム材質  
をPVCに変えてみ  
てはどうか。これも  
防止できないければ外か  
ら見えなくなるがアル  
ミフィルムを使う。  
(3)漢方薬の抽出液を乾燥  
する方法は何が良い  
か。  
答：抽出液は主にアル  
コール含水が多いので  
噴霧乾燥が速くて良い  
と思う。その後乾燥  
技術としては、流動層  
乾燥、泡末層乾燥  
(フォームマットドラ  
イ)、通気式攪拌間接加  
熱乾燥、超音波乾燥、  
攪拌乾燥、スパイラル  
ドライ、真空乾燥、ド  
ラム乾燥、凍結乾燥な  
どがある。ケースバイ  
ケースでいろいろなか  
法を用いるが良い。

(4)漢方薬原料抽出の際濾  
過するのに良い方法は  
ないか。  
答：まず抽出液を上澄の  
み静かに吸み取る。液  
の下部は沈澱物が多い  
ので濾過布を用いて自  
然濾過するしかない。  
沈澱を廃棄するなら  
(再抽出や飼料にしな  
い場合)食品添加物に  
ある濾過助剤(酸性白  
土、ベントナイト、カ  
オリン、珪藻土などの  
鉱物質)を使えばよい。  
(5)この会社には硝酸カリ  
ウムを成分とする糖衣  
錠がある。(注：胆嚢  
炎に有効と言っている  
が日本で調べるとカリ  
ウム不足の補給の他、  
下痢、利尿剤である)  
これも黒く変色するの  
でよい解決法はない  
か。包装材料も日本に  
良いものがあれば紹介  
して欲しい。

答：カリウムが糖と反応  
するの他の成分と反  
応して黒色物質ができ  
るのか試験してみない  
と判らない。糖と反応  
して着色することが判  
明すれば糖衣を止めて  
フィルムコーティング  
錠とする。また包装材  
料は(1)と同じでコレスト  
を考えて効果をみるの  
が良い。数は幾らでも  
ある。成分が判れば対  
応も可能である。  
(6)分色剤で砂糖がかな  
り多いものを減糖化す  
るにはどうしたら良い  
か。  
答：砂糖を混合する量を  
順次減少させて試験品  
を作成し、官能試験し  
て薬品の味と甘味の調  
和できる点を見出せば  
よい。

(7)服用量の多いものを如  
何に減少させたらよい  
か。  
答：薬品は人体に対して  
適量がある。一回分を  
減らしてみても一日全  
体の服用量が勝手に増  
えてしまつては意味が  
ない。この辺ははつき  
り一回服用量一日最大  
服用量、多過ぎた場合  
の弊害を注意に盛り込  
むこと。  
(8)漢方薬の原料抽出にア  
ルコールの代りに水を  
使っても良いか。  
答：抽出されるものがア  
ルコールと水では異な  
るのではないか。両方  
の抽出液を分析して成  
分相違がないか確かめ  
る必要がある。若しコ

スト的な事からアル  
コールを減らしたいの  
なら含水アルコールで  
抽出したらどうか。  
(9)漢方薬原料の粉碎時粉  
が飛散し減量も多いが  
どうすればよいか。  
答：(現場で見た粉碎機  
では)粉の飛散は防止  
できないので、布かプ  
ラスチックカバーをか  
けて機械の外へ飛散し  
ないように、少なくとも  
部屋内に留めるしかな  
いのではないか。  
(10)韓国製高麗人参顆粒剤  
を目前でコップに水  
で溶かす。直ぐに溶け  
て澄明な液になる。こ  
のような顆粒剤を作り  
たいがどうすれば良い  
か。  
答：澄明に溶解するよう  
な界面活性剤的なもの  
が使われているが分析  
してみたらい。日本  
では顆粒や細粒を水に  
溶かして飲む人がいな  
い訳ではないが、完全  
に澄明に溶けなければ  
ならないと考える人は  
少ない。濁つていても  
そのまま飲んでる。  
(11)日本の医薬品で使われ  
ている速溶型の補助剤

や新しいタイプの補助  
剤を教えてください。  
答：医薬品の補助剤には  
その使用目的によつて  
沢山ある。主薬が大麥  
少量の場合や錠剤、カ  
プセルにし易くする増  
量剤、賦形剤、滑沢剤、  
着色料(食品添加物色  
素が多い)、味改良剤  
(マスキング効果)が  
ある。速溶は薬品の効  
果を示す内臓部位にも  
よる。むしろ腸溶剤も  
ある。胃で溶けないよ  
うにしてある。錠剤に  
は打錠時のトラフル防  
止に結合剤(ハイン  
ター)の役目を(1)を  
使用する。  
以上主なる医薬品に関  
する質問と解答である  
が、これを毎日、黒板に  
絵や字(これも英語か漢  
語)を書いて説明した。  
聴く方は大勢。説明は一  
人で通訳を介す。大変な  
作業である。



# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(16)

## 中国の会社(その四)

(技術士農業及び経営工学部門)

佐藤正忠

質疑応答はまだ続

く。今度は食品に関する

質問に答える番である。

前にも述べたが彼等はか

なり記憶力がいい。一度

どこかで何か一言しゃべ

ると、別のところまでこれ

を言い出す。こっちはい

ろいろしゃべっているの

でつい何時しゃべったの

か忘れてしまふ。話しな

がら思い出している始末

である。(申し訳ないが

何時私はそのことを言

ましたかなと問い合わせ

始末である。(食品関係

も実に詳細に言える質問で

ある。自社で実施してい

ないことも、将来を踏ま

えての技術収集の一環

か。とにかく、いろいろ

の質問が出された。

二、工場での質疑応答

(食品関係の場合)

(1)速溶製品の乾燥と良い

補助剤は?

答：日本にあるインスタ

ントコーヒーやミルク

は噴霧乾燥かフリーズ

ドライ製品が多い。速

溶剤としてはある種の

界面活性剤を使用して

いる。但しこれについ

て自分はおまり詳細を

知らない。

(2)動物臓器から作ったカ

プセル製品があるが人

体に吸収され難い。良

い方法はないか。

答：内容は漢方薬食品で

ある。何故動物臓器由

来のカプセルを使うの

か理由は良く判らな

い。吸収し易いものな

したら良い。

(4)ある種の茶は湯で出し

た後冷やると変色す

る。また沈殿が出るが

どうしたら良いか。

答：通常湯で溶けて冷却

されると沈殿する物質

もない訳ではないが茶

の中の成分でこれに該

当するものが何である

か今こゝでは言えな

い。水を交えるか少く

とも鉄分を除いた水で

比較試験してみるとよ

い。こゝで日本で流行

しているフロン茶の

熱充填工程を説明し

約八五で詰めて後冷却

するも沈殿や液の濁り

などないことを説明す

(5)冷果汁飲料、冷菓用に

砂糖を減らし、琼脂(寒

天) CMC、淀粉(澱

粉) 糊精(デキストリ

ン) 果酸(クエン酸)

などのように使用した

らうか。

答：本来天然果汁や果肉

葉単独なら焙焼の際殺

菌もできるが他の成分

が入ると破壊されるこ

ともある。ガス殺菌へ

らいしかな。殺菌後

や臭いの変化を防ぐ

ためにはアルミパック

が少ないあつさりした

味が多い。食べ方もみ

つ豆、あんかけなどに

して食べている。

(6)日本における炭酸飲

料、果汁飲料、茶、乳、

粉末固形飲料、天然食

品の動向や最近の生産

数量を知りたい。

答：今すべてには答えられ

ない。帰ってから調べ

て返事をします。

(7)蛋白飲料、乳飲料、酪

農製品などの保証期間

は?一年持つか。

答：日本では今後は製造

年月日ではなく品質保持

期間賞味期限を記載す

るようになる。種類に

より異なるが未開封で

冷蔵庫に入れておく

(当然包装はしっかり

したものと考えて)。

この場合は一年位持つ

かも知れないが、これ

も一度実験されたら良

い。牛乳はUHT殺菌

が行なわれている。添

加物による保存料は使

用できる対象物と使用

規制があるので充分注

意する方がよい。日本

では無菌充填も行なわ

れている。

(8)日本での膨化食品の生

産はどれくらいか。

答：膨化食品は例えば

ポップコーン、ポテト

チップスのようなもの

を指しており、中に細

かい孔が出来ていて蒸

かい食品であると言

う。これも後から統計

等の資料を送る。

(9)日本での新しい食品添

加物について紹介して

欲しい。

答：日本には現在分類

しないが、大きく言っ

て化学的合成品である

食品添加物が約三五〇

品目、天然物が一、〇

五〇品目くらいある。

最近になって品目が増

えたのは特に柑橘や他

の果実の防霉用に以前

は農薬であったものが

食品添加物に指定され

るものがある。例えば

イマザリル、TBZ、

OPPなどである。

この他にも従来はNa

塩のみであったのがC

a、k、Mg塩などの

塩類もその化合物の伸

間として指定されてい

る。日本では食品添加

物はあくまでポジティ

ブリストに載っている

物しか使えない。又厚

生着もスクラップ及び

ルド方式であり品目

数を増やせぬように注

意している。日本人に

不足しているミネラル

はCaのみであり最近

吸収し易いCa製品が

沢山出廻っている。

(10)真空アルミ蒸着やアル

ミラミネートフィルム

に通気性の相違があ

る。どうしたら良いか。

答：内容物の対空気性

(酸化防止が)と迄必

要か)を考慮してフィル

ムを選択したら良い。

アルミはピンホールが

出易いので注意しなけ

ればならない。

(11)食品中の不飽和脂肪酸

の酸敗をどうして防ぐ

か。

答：加工途中の場合と製

品中の不飽和脂肪酸と

では扱い方法が違う

が、加工途中ならあま

り加熱しない空気にさ

らさないよう工程上で

気を付ける。製造なら

酸化防止剤の併用(抗

酸化剤、脱酸素剤)紫

外線防止フィルムの使

用冷蔵所保管をする。

(12)中国の飲料に双岐桿

菌、大腸桿菌、乳酸菌

を含むものがあるが、

特に大腸桿菌を陰性に

する技術はないか。

答：双岐桿菌がよく判ら

ない。(後で調べたら

コリネバクテリウムら

しい)。数も割合も多

い。それぞれの菌の発

育適正温度やpHなど

条件を調べないと何と

も言えない。日本で良

く用いられるビフィダ

ス菌を説明したが良く

理解されなかった。

主なる質問は以上のよ

うであるが、この他にも

酒ビール、味噌、醤油、

納豆、豆腐等の製造法、

農水省で決めている無農

薬、減農薬、無肥料栽培

など有機野菜定義、日本

人の食事や飲み物の習慣

(例えば中国人はビール

もあまり冷やして飲ま

ない)中国の四大死因(心

臓病、心筋梗塞、脳疾患

と癌)など、まあ出るわ

出るわ流石の私も疲びれ

た。

# 外国食品工場の 情況調査と指導に携って

(12)

## 中国の会社 (その一)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤正忠

本年三月中旬中国の会社への派遣が決まった。相談は昨年の秋から始まって、たのが、先方からの受入状が遅れたり、専ら正月に入ったため当初より出発が大分遅れた。お陰でこちらは二月一杯十分に中国語会話レッスンを受けることが出来た。一日約二時間づつ五〇レッスンを一単位なので結構大変である。でも会話(車の運転と一緒に)でも一日一回やった方が覚えもよくなった。フィーは幹事の協会も。ただほと安いのはない代りに怖いものもない。でも一カ月の特訓が今回家少は相手の言(この理解が出来ただけでも満足した。英語圏

ならまあ良いが、中国語は港でも早く出過ぎて迎える人となかなか会わず小一時間くらい時間を無駄にした。私の持論としてその国へ行ったら出来るだけその言葉で話して話し合いコミュニケーションをする。こちら一生涯懸命習った訳である。しかし面(口)に空(中)の港やホテルでは当方が日本人と判っているのに英語で話しかける。始めはこれが中国語かなと思つたが、ゆくり聞いてみると何と英語。大都会では英語が通じるならとまずは一安心した。上海まではほんの一飛びで、昼食を食べてまごむ時間も無い。日本列島に沿って南西に飛び海を越えればもう上海。この国際空

港でも早く出過ぎて迎える人となかなか会わず小一時間くらい時間を無駄にした。私の持論としてその国へ行ったら出来るだけその言葉で話して話し合いコミュニケーションをする。こちら一生涯懸命習った訳である。しかし面(口)に空(中)の港やホテルでは当方が日本人と判っているのに英語で話しかける。始めはこれが中国語かなと思つたが、ゆくり聞いてみると何と英語。大都会では英語が通じるならとまずは一安心した。上海まではほんの一飛びで、昼食を食べてまごむ時間も無い。日本列島に沿って南西に飛び海を越えればもう上海。この国際空

やは竹は植物であり滑り易いし危険もあると思つた。高い所でも平気で組んだ竹に乗っての作業である。今回はたまたま私の行く安徽省に若手組でのリンゴ栽培・育種の専門家が居られ、夕方その先生とお会いして夕食に行く。中国人は比較的アルコールの高い酒(焼酎の類)を飲み且つよく食べる。日本人は酒を飲む際はむしろ小食気味であるが彼等は逆。ガイド氏と当初ビールを飲んでいたらその内アルコール度五〇%の酒になる。乾杯ルーテルで三人で七六〇ccくらいのボトルを空けてしまう。不思議にこんなに食べて大丈夫かと思ふ位肉、魚、野菜など殆どが油っこいのであるが、初日から食べてしまった。

翌日は飛行機の出発が夜九時半とのことでガイド氏とリンゴの専門家三人で上海市内をゆくりと見物した。名所旧跡の案内を書いても仕方ないので省略するが、職業柄食べ物の廃棄物の処理方法などはどつても気になる。中国人は前述のように酒があつても結構人数分より余る程料理を取るのである。朝昼夕食と後テーブル上の皿には残っている。しかしウェートレスは一つにまとめて油だらけの皿はそのまま重ねて持って行く。店の横にある廃棄物入れにはこれらがどのもも満足である。飼料になるのであろう。朝昼夕食とたつぷり御馳走になる。いつも思つたが油っこい料理を食べても茶を飲むと割と消化にも良いようである。まだまだ中国ではトイレ事情が良くないので途中で催すと面倒である。レストランでも小さな所だとトイレが店の外にありたりする。また大の方も扉が無かったり、溝があるだけのあったり大変臭気のあるトイレである。どこへ行ってもまずは「廁所在哪兒？」と聞いて確かめておかねばならない。始めて使う中国語がトイレは「ここと」家少銭?」ではいささか恥ずかしい気持もある。さんざん食べてガイド氏と空港で別れて「合肥」の飛行機に乗る。結構混んではいたがゆつたり出来、お菓子と茶を飲んで内(中)に二時間弱のフライトであり直ぐ到着する。リンゴの専門家K氏はもう何回も来中されており荷物が出る前から迎える人と話をされている。夜の一時近くなのに二人のために七、八人の人が迎えて来てくれた。ここでK氏と私はホテルが違ひお別れする。K氏は今夜(二)に泊し明日は汽車でもっと奥へ行くとのこと。残念なから山椒太夫の心持ちで彼と別れ、以後お会いしてない。私は会社幹部の方と市役所の通訳の方及び人中友好協会の方五人でホテルに向つた。ホテルで部屋に入り明日の迎える時間を九時半に決めてやっと二人になり、その晩は大きなダブルベッドに明日からの仕事を夢見てぐっすり熟睡したのであった。

翌日から全くの一人。朝食はセットであるが小豆入りの粥、卵、春雨、肉入りスープ、包子(パン)饅頭、野菜のため、甘い砂糖入りの牛乳など朝からかなりの量である。でもこれからの一日の活を入れるため全部平らげた次第である。予定通り運転手と通訳の唐氏が来て私は始めて内(中)に不安をもつて会社を訪問した。この会社は製薬会社であるが一方健康食品も製造販売している。社長はワンマンで殆ど全て自分がきり回している。常に携帯電話のみを持ち歩きかかって来る電話に待っている。よくも頭が直ぐに切り換えられるとほとほと感心する。会議室には二十数名の会社幹部の方が座つて私の到着を待っていた。意外に若い人も多いし女性も三分の二くらいいる。形通りの挨拶をした。特訓の成果も出さねばならない。一生懸命少しメモを見ながら「我姓佐藤正忠。我是从日本東京来的很高兴有机会来到中国合肥。以后多多关照。哪是你太客气了」と自我介绍(自己紹介)した。どの程度理解してもらえたか判らないが、後から通訳

# 外国食品市場の 状況調査と指導に携って

(18)

## 合肥という町 (その一)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤正忠

合肥市は安徽省の省都である。長江(揚子江)と淮河の間にある古都である。今はないが東西二本の淮河が合流しているところからこの名が付いたといわれる。緑の環状の公園が市街を縁どっており、町の北西部には杏子の樹が沢山ある杏花村もある。空港は市の南郊外にある。

初めて中国に到着した翌日、夜の九時半という時間に合肥まで同行のやはりコンサルタントであるK氏との空港に降りた。上海からは僅か一時間程度のフライトである。これが汽車となると特急列車でも上海から九時間。帰る二日前から観

光を兼ねて車で上海まで送ってもらったが、途中南京、蘇州を見物して二日以上を要する距離である。とにかく合肥は約二千年の歴史のある古城であり、市内には三國時代の古跡があり三國志ゆかりの古戦場などもあって興味ある人には見逃せないところである。私も会社の休日を利用して美人の女性通訳二人(実は指導会社の社員)と市内をいろいろ歩いて廻った。小さな町ではあるが、ちゃんとタクシーもあり黄色の手をあげればどこでも乗降できるものを利用する。簡便であり具合も良い。しかしタクシーもなへシートクッション

も良くなき暑い時期はぜひ大変であらうと推察される。安いのが良い。休みの朝ホテルロビーで待ち合わせ。二人のお嬢様のご案内でレッツゴー。英語のガイド付きで大満足。

逍遙潭は公園となっており、町の北東の角にあり、三國志ゆかりの古戦場である。入口で入場券を買ったが中国人と外国人は料金が異なる。改札の所だけ口を閉じて入る。もっとも英語で話していればどの国の人が判らない。中に入ると最初は遊園地のような感じがする。上に大きな豚の飾りがあり下には洞窟があり神や仏さまには悪魔などの像がある。何のことがさっぱり判らないが、(一)の歴史は後漢の建安二〇年(西暦二五五年)孫権が率いる一〇万余の兵隊がこの合肥を攻撃した。当方は曹操の大將張遼がこれを迎え討ち、僅か八〇〇名の兵でこれを打ち破り勝利を収めた。その後が現在のようになり、池と緑の豊富な公園になっている。中国の寺はどこのものすごく広い。その中に所謂寺らしい建物が多々ある。ひとつひとつに由緒がある。それに石で造られたものが多いため千年も二千年も残るのであろう。昔のこの地方を治めていた王族や殿様で偉い人はそれなりに善政を、悪政をやった人は天罰が下って殺されたとか、大体筋書きは洋の東西を問わない。そんな昔を知るや知らずか公園内の池にはのんびりとボートや足こぎの船が浮かんでおり親子連れやアベックが遊んでいる。中に包孝肅公祠という建物がある。この参観券(入場券)が別に三元。

入場券より高い。中に包孝の像があり田来が書いてあるが何せ漢字ばかりで美に読み難い。何とか判読して理解する。公の墓所の券の裏面にある紹介文によると包拯九九九二年に合肥に生まれ一〇六二年病により六四才で死去。宋時代の名臣であつたらしい。中国にも最近では写真やバックする技術が広まり通訳兼案内の女性は何枚かの絵葉書や金属製(表面金メッキ)メダルを買ってくれる。これ他にも浮圧がありこれは入場券僅か五角。包孝墓所の池を挟んだ向い側辺りにある。古典的建築物らしい。池に沿って回廊があり景色は大変に良い。もう喉がかわいてしまい池に面した休憩所で茶を飲む。やはり大きな茶碗に白湯に茶葉が入っておりこの茶葉をフーフー言いながら除けて茶を飲む。彼女等は種子を煎ったり揚げたものが好きらしく、五、六種の袋入りを買って来て三人で食べる。般は皆下に捨ててしまふ。私ひとり般を

机の上に置くとするが風が吹くとそれも吹き飛ばされてしまふ。こゝ一つでも三時間くらいは時間がかかってしまふ。次に例のタクシーで明教寺に行く。寺に入る手前の通路が狭くまた街路樹を切った枝が道路に放置されており車が入れない。仕方なく手前で車を降りて歩く。こゝは門前市が多く食べ物屋、土産屋などが所せましと並んでいる。食べ物も沢山あり香りは大変良い。しかしどうもグロテスクな感じがするし、衛生的にもであり食が進まない。彼女等はまたお腹が空いたのか食べながら歩く。こゝは前の逍遙公園の南隣に位置する。入口は階段を登った上にある。誰に金を払って切符を買ったら良いのか判らないとこゝに中に入る。この寺は南朝時代に創建されたと言ふ。境内の教習合は魏の曹操が言の練習のために築いたものと言ふ。台上は西晋の泰治五年(二六九年)に掘られたという井戸がある。

周囲は石で井戸の周りも囲ってはいるが、はるか奥に水が貯っていた。この寺の奥に丁度中国人団体が来ており盛んに額づいて拝んでいる。中国の寺にある像の前には座布団があり皆そこに膝をついて拝む。また日本と異なるのは鐘の下にも小さな像(高さ二〇cm位)があり花も生けてある。上海の寺に多いが仏の像が堂の周囲にあり、これが皆片足を上げた姿である。掃除する小母さんが仏様らが会談中下を掃くため足を上げさせ、もう降ろして良いといつのを忘れたためであるとか。なかなか面白い。

合肥市は福崗県久留米市と友好都市を結んでおりやはりホテルのすぐ近くに合肥久留米友好美術館がある。二階建の立派なものである。この内に敵さんという井公室主任兼作家協会の方がいた。日本人に案内するためと言つて単語を日本語と中国語に對比してノートにびっしり書いてある。一部間違っている所もあり修正してあげたら喜んで茶を飲み、煙草を吸え、饅頭食べると進められ断るのに困った。作家協会で作ったどの辞書や掛軸(字や画)、硯などを売っているが買うのは筆二本に留めた。



# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(19)

## 合肥という町 (その二)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤 正 忠

前回合肥の町にある古

い寺を書いたが、私が一  
五日間(正味は二三日)  
過した新華大酒店はか  
なり立派なホテルであつ  
た。国際会議場国内でも  
数百人集まることのある  
会場があり、時々何の

会議が判らないが大勢の  
人が居る。こんな時はレ  
ストラも一杯でテーブ  
ルに着くのが大変であ  
る。しかしウエートレス  
も長期滞在者は顔も覚え  
てくれ、どこかに席を設  
けてくれる。朝食はおか  
ゆ(たまご小豆入り)、パ  
ン、甘い牛乳、ピータンで  
はないが醬油や酢に漬け  
た卵、饅頭など大体決つ  
ている。昼や夜は当方の  
注文により何でもある。

通訳氏が付き合ってくれ

る時は結構ボリュームが  
ある。二人では食べ切れ  
ない程盛つてある。これ  
が最低量だから仕方な  
い。確かに外国人は日本  
人に比べて食欲が多い。

日本食はいろいろなもの  
を少しづつ食べる所、懐  
石料理的であるが中国の  
料理はその逆で、二人分  
といつても大皿に盛つて  
来る。そして肉の入った  
野菜、魚の入った野菜と  
種類もある。だから飯は  
ほんの少しで良い。湯飲  
茶碗に一杯程度で充分で  
ある。ビールでも飲めば  
なおよさら米は減る。油の  
量も多い料理を一日の間  
毎日食べた訳でよほど腹  
がついて来たか自分では

心する次第である。

夕食は二回程町中の屋  
台に行く。小屋でもあり  
所はまだ良い方で、通常  
は歩道の半分位占領して  
一〇個位の七輪に鍋がか  
かっており、わけのわか  
らないものがぐすぐすと  
煮えている。歩道にあり  
薄暗いので歩いていて  
うっかり七輪にぶつかり  
そうになったこともあ  
る。さすがに料理の方は

通訳氏に聞かないと判ら  
ない。一応何とか素姓の  
判りそうなものを食べ  
る。周回は全部中国人。  
しゃべりながら食べる。  
やかましいこと、そして  
煙草は吸うし、路上だか  
ら良いようなものむせ  
かえる感じである。衛生

問題なんか考えている間

はない。何せ箸でも皿で  
も碗でもどの程度完全に  
洗っているの不明。皿  
の端を持つと油でぎとぎ  
とするのが判る。でも料  
理が熱いものだからと自  
分で割り切つて食べるし  
かない。ビールを飲む  
コップも欠けたり、ヒビ  
が入っていたり、中国で  
はビールを冷やして飲む  
習慣がないらしく、また  
コップが汚れているせい  
もあってか、泡が立たな  
い。それでも飲み且つ食  
い、しゃべっているとは  
構食べられる。

最後のの方に一度本格  
ラーメンを食べたいと  
言つたら、では先生を工  
場に行く前に連れて行く  
から朝食抜きで待つてい  
て欲しいと言われ、いつ  
もより三〇分程早く迎え  
の車が来る。工場へ行く  
途中にもラーメン屋が何  
軒も店を出している。何  
軒とか何店とかいっても  
本当の店ではない。これ  
も歩道上に台を二個並べ  
て木製の板をその上に並  
べたのがテーブル。注文  
するとテーブル横にある

煮立つた湯で麵をゆでて

くれる。その前にドラが  
あり、一人分を長方形の  
中国形包丁でカットし、  
こねる。両手で三、四回  
ドラを伸ばす。径二cm  
くらいになる。次の細い麵  
になる瞬間が良く判らな  
い。何回見ても判ら  
ない。日本のテレビコ  
マーシャルでどこかの  
ラーメンでどこかの  
歴史とか言つてドラを伸  
ばしているのを見たこと  
があるが、まさしくそれ  
と同じ。大きく伸ばして  
いる時はまだ径が太いの  
に次の瞬間どつして細く  
口に入る位のサイズにな  
るのが不明。あまり一生  
懸命見ているので調理す  
る小父さんも不思議顔を  
していた。味も良かった  
しボリュームもある。二  
回程続けて朝食にこれを  
食べた。具も沢山あり量  
的にも多いので充分昼食  
までもった。

町の主な露店は二の  
二つであるが、合肥の町  
はどへ行つても食べ物  
は沢山売っている。中国  
鉄道の合肥駅にも行つて  
みたが人も沢山いると店

もある。そして食べてい

るか煙をふかしているか  
仲間としゃべっているか  
のいずれかである。列車  
の写真も簡単に撮らせて  
くれた。駅の売店は日本  
も同様であり、スナック  
系の食品、袋入りのもの  
が多い。いずれもカラフ  
ルな容器包装。意外に食  
べ物は豊富である。

中国で二つ気になつた  
と。それは紙幣がどれも  
汚ないことである。ポ  
ケットにそのままつた  
んでいるせいなどの札も  
くしゃくしゃ。通常の支  
払いは一元とか一〇元単  
位の紙幣が使われること  
が多いが消費者は店で物  
を買つとポケットからく  
しゃくしゃな紙幣を出し  
て台の上に投げ出す。もし  
釣りがいる場合には店員  
がこれまたよれよれの紙  
幣なりコインを客に投げ  
返す。この動作は銀行  
員もやる。中国銀行しか  
日本円を交換してくれな  
いが、この銀行の窓口で  
も交換した人民元を客に  
投げるように返す。日本  
みだりに紙幣を重ねてト  
レーに入れて客に渡すよ

うな丁寧さはまるで見  
れない。この辺は未だ人  
民を見下している態度が  
明らかさまに伺える。言葉  
も殆ど判らないけれど  
も、どうもあまり敬語的  
な表現がされていないよ  
うである。英語でも例え  
ば「サンキュー、サー」  
と男子には敬語を使う店  
員が多いが中国ではなさ  
そう。店は物を売つてあ  
げる所であるし、客は買  
わせて頂くといった考え  
でもあつたであらうか。

しかし中国でもいつまで  
もこのような態度では特  
に今後外国との付き合い  
が増加するにはよくない  
と改める気運が出始めて  
いる。殊に従来のような  
全体主義でなく、ある程  
度個人の裁量も認める民  
主化政策が実施されつつ  
ある現在、やはりお客様  
は神様ですの考えをしな  
ければいけない。これは  
物を生産する工場でも同  
じで、次工程はお客様で  
あると考え次工程には数  
量の間違いはもとより不  
良品や欠陥品を絶対に出  
してはいけないとの考え  
もGMP講演で話した。

今、中国の街中には物

乞いなど殆どない。し  
かし人の飲み残した缶入  
りジュースやコーラなど  
を取つて飲んでいる老人  
は見た。どこかの寺へ例  
の美人通訳が行つた際五  
〇〇ccのコカコーラが飲  
み切れず、くす入れに捨  
てたが、すぐそれを拾つ  
て飲んでた。人の捨て  
たものなど特に食べもの  
や飲物は危険な感じがす  
るが、その点は平気なも  
のである。

全般に治安は良く、  
時々ホテルから一人で近  
くの百貨店やら薬局、露  
店などへ冷かしに出かけ  
た。勿論金は少ししか持  
たずカメラのみであり多  
少は警戒もしていたが概  
して平気である。  
それよりも交通ルール  
が大変で車は日本と反対  
であり、よく判らないの  
は左折右折して来る車が  
歩道があつてもつた込ん  
で来る。横断する時は中  
国人の団に混じつて行  
くしかない。町中バス、  
トラック、乗用車、自転  
車(これが又多い)が走  
り喧騒の限りである。

# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(20)

## 再び中国の食べ物について

(技術士農業及び経営工学部門)

佐藤 正忠

中国の食べ物には人によつては(特に日本人にとつては)油っこい腹にもたれる、消化がどうもなどと言つた人が多い。私は幸か不幸かごへ行つてもその土地の食べ物を食べても平気な体質なので、その点は安心である。中国では収穫地と消費地が離れているか、輸送手段が今いちであるため、あまり、なま物を食べない。これは昔からの習慣もあると思つた。広西壮族自治区の北海でも海の近くのレストラン(と言つてもよすぎ張り)の囲いで日本の夏によく見られる脱衣場のある家のよつな処)で食べた時、入口に生きている魚やエビ、カニ、貝類

なども野菜と一緒に油炒めされたり、スープになつたりして料理される。なまの刺身には、ついでお目にかかれなかつた。なま魚を食べることもありなく、鮮度には問題ないとは考えが、衛生的な問題からか、なま物は出て来ない。

南寧市内のレストランでは市内を流れる邕川で穫れる花魚の刺身を食べた。刺身と言つても彼等は香辛料を効かし、野菜(ねぎ等)と醤油の入った容器でかき回してから一緒に食べる。日本のようににわさび入りの醤油で若干のしその実やしそ葉のきざみを入れた程度の食べ方ではなかつた。

この省は名前にもあるように少数民族が多い。特に壮族、苗族などが多い。市内で古い銅製の鍍金を集めた博物館にもいろいろな民族衣裳を展示してあるが、この横にある小さな喫茶店(夜になれば飲茶料理を出す)にいた苗族服装を着た本場に可愛らしい姑娘がいた。一緒に並んで写真を撮らせてもらった。

同じく市内にある少数民族の料理店へも行ったが、入口から歓迎の響を鳴らしてられる。独特の布製ボールに糸が数本たれてるものを舞台から客席に投げつけてくれる。これを取ると良いことがあるとのことだ。負けずにボールキャッチする。しかし何てことはない。

ボールを掴んだ客の耳を引く張つて酒を飲ませるのだ。杯は小さく五勺位入るもの。ついでお互いに腕を絡ませて相手に飲ませる。こんな他愛のないことをやるだけであつた。でも楽しい一夜であり、客人の私が喜んでいたので同席の会社幹部の人や市の科学技術委員会の人達も喜んでくれた。

料理はカフェテリア方式で好きなものを幾つでも取つてくれればよい。歓迎に民族村「遊」とあり、ひとつづつ料理に各民族料理の名前がある。その数およそ二〇種以上あり、勿体ないがこれも全部は食べられなかつた。主なものを挙げてみると、「苗族竹叶鸡」という笹巻きの鶏肉、「苗族魚皮球」という卵で魚を巻いたもの、同じく「苗族香糯米粽」というもち米を竹の葉に巻いたチマキ様のもの、「苗族緑香包」は肉を竹の葉に巻いたもの、「瑶族竹筒飯」は芋の如く竹筒に入れたもち米を油をまぶして蒸して作ったものであ

り、中のもち米を出すの間に手間がかかり手が油だらけになるが、味はこなものである。この他にも沢山の料理が並んでいて、デザートにも例によつて甘い菓子もある。ここでは本当に楽しく食事が出た。カラオケ設備もあり、それぞれ音楽しく中国風に食事をする風景が見られた。

食べ物ではないが、南寧には会社で漬物製造法を教えるために行つたのが、この地には醤油(鉄島醤油とある)、グルタミン酸ソーダ、サクカリン、食用色素(胭脂紅カルミン系や克柔紅アマランス系)、豆醬(大豆から造つた味噌)、調理用酒にも糯米白醋、紹興加飯酒、米粒の入つた甜酒など一通りのものは整つていて、酒はガラスびん入りであるが町中では油でも醤油でも酒でも液体の計り売りもやっている。

一般の醤油や牛乳(中国では牛乳)をプラスチック袋でパックしている。牛乳は二応光フィルムであるが醤油は白色不透明の容器であり多少

内容品質保護に問題があるつとの懸念がある。それ以上の問題は封を切つて中味の出し難い点である。袋は液体のため、ぶよぶよしており、袋の隅を切るのだが液体が飛び出す恐れもある。この様な袋に入れる方もどうだ

が、扱い難い代物である。牛乳の場合も同様であり、うまへコップに移さないで面倒である。

当地名産の酒には蛤蚧酒がある。オオヤモリやトカゲを漬けた焼酎であるが、補血、強壯に効果ありと言われても瓶の中に現物が浮いているのは何となく気持ちの良いものではない。しかし飲んでみると蛇の血や体液入り

のものと同じくそれ程生ぐさい感じはしない。北の方へ行つた時にはあまり言われない方が良く言われたが、本当に中国の人は四つ足は机椅子以外のもので、飛ぶものは飛行機以外は皆食べると言つてもいい。

またこの地域では梅の実も沢山穫れる。今度は、四、五月頃梅干しの製法

を教えて欲しいとも言われている。今ある梅の実には砂糖をつけて乾燥したものがプラスチック袋にパックされてスナック菓子として売られている。その名も甜話梅、佳宝梅、開心揚梅、九制話梅、情人梅などと銘打つてある。中にはアルミバック製品もある。何れも口にに入れて良く止渴効果がある。登山にドライフに

デート用によいと絵入りの製品もある。梅の他には梅(オリーブ)、柑桔などの同様製品もある。口内清涼感を与えるものとしては良いであろう。しかし後口がどうも砂糖だけだなく、いつまでも口中が甘く残っているのは自分が慣れないせいかも知れないが一寸だけではない。

飲料にも羅漢果ジュースや水菓入りジュースがある。羅漢果は最近日本でも糖尿病に良いとか健康食品でも売られている。中国で私が飲んだのは喉や肺に良いとのこと

で直径五センチ位のを手で四分の一に割つて湯で抽出して飲む。これもグリチルリチン系の甘味があり、あまり後口が良くない。でも皆よく飲んで

いる。一方水菓はウォーターチェスナットといつたが、木になる菓ではなく水の中にある。味はレモン

の如きものでこれを細かく刻んで砂糖液と一緒に缶入りで売っている。こちらはあっさりとしておいしい。水菓は未だ日本では見えないが羅漢果は一ケ三〇〇円位で売っている。現地から見ると一〇倍以上の価格であるが、多少高いものの方が効果があるように思われる。

包菜も容器に入れて売っている。この容器は口の部分が二重になって蓋をかぶせる様になっていて、焼物で、えりの部分に水を入れておくときサイフォンの原理で内部への空気を遮断する。従つて内部に酸や雑菌が繁殖しない。うまく考えた容器である。しかし肉味は非常に辛い。まさに癖の一語である。白飯にかけるとおいしい漬物である。中国の食の思い出は尽きない。

グリチルリチン系の甘味があり、あまり後口が良くない。でも皆よく飲んで

# 外国食品工場の 状況調査と指導に携って

(25)

## 南寧食品工場 (二)

(技術士農業及び経営工学部門)  
佐藤正忠

もう少しこの食品総合  
工場の全体概要を続けた  
い。

インゲン豆は長さ二〇  
センチのもの両端をカッ  
トし、湯にざっと浸漬し  
た後、急速冷凍する。冷  
凍インゲンはこの後、缶  
詰工場へ移され、秤量し  
ながら、へらのようなも  
のとチトリみだいな道  
具でつまみ缶に入れる。  
その後の巻綿、ラベル巻  
きなどは通常のとおりで  
やっている。

量と達成率が記載されて  
いる。特にノルマの上っ  
た班には、ご褒美も出る  
らしい。そういうえは漬物  
工場を私を手伝ってくれ  
たときにも以前どこかへ  
旅行に行ったことがある  
と言っており、中国の会  
社も大分自由経済的な考  
えになって来たなど痛感  
する。

に大きな卸売市場もあ  
り、本場にいろいろなも  
のを売っている。漬物の  
製品までバラで売ってい  
る。実に中国人の胃袋は  
たくましいものと実感さ  
せられる。

冷凍野菜にはインゲン  
豆(製品リストでは青刀  
豆)の他、アスパラガス  
(青筋)カリフラワー(花  
菜)グリーンピース、苦  
瓜なども造っている。ア  
スパラなど一部はガラス  
びん入りの製品もある。  
水漬製品で日本にないも  
のの二つに水菜(ウォーター  
チエスナット)があ  
る。従って暖かいので、

野菜でも果物でも何でも  
沢山獲れる。  
熱帯系の果実も街に沢  
山見られ、安いのが良い。  
薄いポリ袋に果物を入  
れ、破れそつなのを恐る  
恐るホテルの部屋に持ち  
帰る。これでも十元位な  
のだから安いものである。  
まあこんな所で果物  
の果汁や果皮入り缶詰の  
種類は多い。果汁で日本  
にあまり見られないのは、  
ライチジュースと  
ルーハンゴオ(荔枝汁)

である。前者は中華料  
理のデザートでも見られ  
る果実をジュースにした  
ものであるが、後者は径  
七、八センチの褐色のボ  
ル状である。これを手で適  
当な大きさに割って湯で  
抽出して飲む。甘味が甘  
草系でグリチルリチンの  
ような味で好き好きはあ  
る。これも一ケース程  
土産に買った。重くはな  
いが、かさばるのと漬れ  
易いので困った。日本で  
最近一個三、四〇〇円位

で糖戻、高血圧症に良い  
とかで売っている。中国  
だと価格もこの十分の一  
以下である。効能も喉や  
肺に良いと言っていた  
が、あの甘さには一寸  
参った。でも中国は医食  
同源の国でもあるし薬膳  
の国、上手に食べ物を摂  
取して健康を保っている  
不思議が多い。

今回ずいぶんお世話に  
なったG高級工務師も、  
乙女史も、皆同じ部屋  
にいる。デスクも木製で  
ごく普通のものである。  
机の大きさによる差別も  
少ないようである。しか  
し机の上にはかなりの書  
類やファイルが山積みさ  
れている。必要な書類が  
よく直ぐに取り出される  
のか、よほど頭が良く記  
憶力が良いとしか考えら  
れない。前回中国の別  
の会社でも同様であった  
が、中国人は頭が良い。  
契約事項のみの指導と監  
方は割り切っているつも  
りであるが、どこかで一  
寸口走ったと覚えら  
れていると困る。知らな  
いと言っても知っていて  
言わない、或いは隠して  
いると動揺られかねない。  
本場に知らないこと  
は、はっきり言うことで  
ある。後で誤解を招くよ  
うなことがあってはお互  
いのために、賢明なこと  
ではない。

珍しいのは水菜(わらい)  
で他はパイナップル(切  
り方の違いで各種ある)、  
マンダリンオレンジ、マ  
ンゴー、ロンガン(花  
龍・眼ライチ(荔枝)  
など種類は多い。何せ)  
の南寧市は中国ではかな  
り南部に位置し、あと二  
〇〇キロも下ればベトナム  
国境に達する位置であ  
る。従って暖かいので、

野菜でも果物でも何でも  
沢山獲れる。  
熱帯系の果実も街に沢  
山見られ、安いのが良い。  
薄いポリ袋に果物を入  
れ、破れそつなのを恐る  
恐るホテルの部屋に持ち  
帰る。これでも十元位な  
のだから安いものである。  
まあこんな所で果物  
の果汁や果皮入り缶詰の  
種類は多い。果汁で日本  
にあまり見られないのは、  
ライチジュースと  
ルーハンゴオ(荔枝汁)

である。前者は中華料  
理のデザートでも見られ  
る果実をジュースにした  
ものであるが、後者は径  
七、八センチの褐色のボ  
ル状である。これを手で適  
当な大きさに割って湯で  
抽出して飲む。甘味が甘  
草系でグリチルリチンの  
ような味で好き好きはあ  
る。これも一ケース程  
土産に買った。重くはな  
いが、かさばるのと漬れ  
易いので困った。日本で  
最近一個三、四〇〇円位

で糖戻、高血圧症に良い  
とかで売っている。中国  
だと価格もこの十分の一  
以下である。効能も喉や  
肺に良いと言っていた  
が、あの甘さには一寸  
参った。でも中国は医食  
同源の国でもあるし薬膳  
の国、上手に食べ物を摂  
取して健康を保っている  
不思議が多い。

今回ずいぶんお世話に  
なったG高級工務師も、  
乙女史も、皆同じ部屋  
にいる。デスクも木製で  
ごく普通のものである。  
机の大きさによる差別も  
少ないようである。しか  
し机の上にはかなりの書  
類やファイルが山積みさ  
れている。必要な書類が  
よく直ぐに取り出される  
のか、よほど頭が良く記  
憶力が良いとしか考えら  
れない。前回中国の別  
の会社でも同様であった  
が、中国人は頭が良い。  
契約事項のみの指導と監  
方は割り切っているつも  
りであるが、どこかで一  
寸口走ったと覚えら  
れていると困る。知らな  
いと言っても知っていて  
言わない、或いは隠して  
いると動揺られかねない。  
本場に知らないこと  
は、はっきり言うことで  
ある。後で誤解を招くよ  
うなことがあってはお互  
いのために、賢明なこと  
ではない。